



未解決の交通危険箇所は 計画的に対策を

真野 和久議員

今後計画を立てる必要があると考える

産業建設部長

問 大津市で起きた保育

園児を巻き込んだ交通事故は、改めて保育園や学校、行政などが交通安全対策を見直す必要を示している。第1に保育園や学童クラブ等の外出の現状と対策は。

答 保育園などの多くが、気分転換や交通ルールの勉強のため散歩を行っている。年に数回から、春と秋の季節のよいところに週1回程度行うなど、さまざま。また、児童クラブも、隣接する小学校や公園へ出かけている。

保育所などには、園外での活動の際の移動経路の安全性や職員の体制などの再確認をしてもらい、危険箇所があれば児童福祉課へ連絡してもらおうにお願いしている。

問 市内の交通安全上の危険箇所について、把握している危険箇所は、学校との調査を含めてどのぐらいか。

答 毎年、学校、教育委

員会、道路管理者で、通

学路の合同点検を行っている。平成30年度は、点検箇所65カ所が出され、対策の実施を行っている。

問 その中で、具体的に何件が対策済みで、何件が未解決か。状況は。

答 対策済みは58カ所、未解決の部分が7カ所だ。対策済みは、カーブミラーの直し、停止線等の引き直し、グリーンベルトの設置、交通安全の啓発看板等の設置。未解決は、車の交通量が多すぎるなど、すぐ解決できない内容や、用地取得を伴う案件である。

問 なかなか解決ができない場所は、交通安全対策として計画をリスト化し、対応、改修をしておく考え方はないのか。

答 通学路を中心に、そのような道路計画を、今後、立てていく必要があると考えている。

問 警察は「ゾーン30」として生活区域を設定し、30キロ制限をわかりやすく表示したり、車のスピードが出ないような工夫をしている。ゾーン30を含めた交通安全対策など、市が政策的に整備を考えていく必要がある。市長の考えは。

答 職員に路面状況を常に確認するように指示している。なかなか道路幅員を拡幅できない箇所は、地元や地権者と協力を得



▲なかなか改善されない町方町古江の交差点

ながら順次進めていきたい。また、カラー舗装、信号機、横断歩道等は、警察ともよく意見交換をして交通安全に努めていきたい。

その他の質問

● 公共施設の個別管理計画の内容は